

めまぐるしい環境変化時代のR&D

今号の特集では成果の上がるR&Dについて探りました。取材で感じたことは、外部環境と内部環境の変化に伴い、過去成功に導いたR&Dのやり方と、現在あるべきR&Dの姿も変化しているだろう、ということです。

外部環境については、我が国の人口減少、大手メーカーの海外生産移管等で、多くの中小企業が従来主力としてきた製品分野における市場成長率が低下しています。と、同時にVUCA*の時代でもあり、従来以上に変化をとらえ、機敏に動くことが求められています。

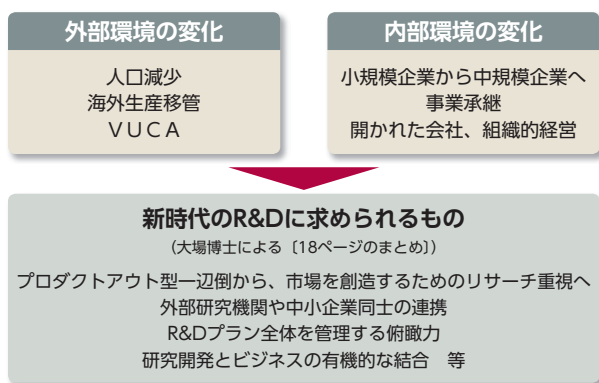
内部環境については、多くの投資先企業において、“裸一貫”という創業期は卒業し、事業基盤を持つ有力企業となっています。また、事業承継も経験され、組織的な経営を意識している企業も多いと思います。

これらの環境変化を受け、「広義の研究開発（18ページ）」の考えを取り入れることが重要になっています。

今回取材した株式会社アマノでは、創業社長時代「ともかく年に1回は新製品」の精神で、プロダクトアウト型R&Dで成長しました。他方、マーケットシェアを築

いた現在では、社会のニーズを汲み上げ、リスク・アセスメントや技術マネジメントといった手法も取り入れ、F/Sと表裏一体でR&Dを進めています。

VUCAの時代、内外の環境を把握し、最適な方法を探り続ける必要があります。幸い、今の時代に求められるR&Dのフレームワークを提供してくれる産総研のような支援機関もあります。有効活用をご検討ください。



*VUCA Volatility (激動)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (不透明性) の頭文字で、現代の社会経済の特徴を表した語

産総研 技術コンサルティングのご案内

技術コンサルティングは、企業が自社だけでは解決できない課題に対して、産業技術総合研究所（産総研）の多様な専門集団が最先端の研究成果と豊富な知見をもとに、ソリューションを提供する有償の制度です。平成27年度から始まり、平成28年度には275件のコンサルティングを実施しました。

この技術コンサルティングは共同研究契約などより簡易な約款方式による契約形態（秘密保持に関する取り決めを含む）なので、よりスピーディに皆様の課題に対するソリューション提供へ取り組むことが可能です。また、新事業や製品開発を模索している「アーリーステージ」から、事業化に向けた研究段階である「ミドルステージ」、開発を終えて、量産化やコスト削減などに取り組む「レイトーステージ」まで、事業化・製品開発のさまざまな段階で多様な内容のサービスを提供しています。

技術コンサルティングのメニュー一覧

	アーリーステージ	ミドルステージ	レイトーステージ
企業における事業化の流れ	新技術・事業の探索に向けた調査・企画段階	有望な事業アイデア・技術シーズの事業化に向けた研究開発段階	研究成果を事業化し、ビジネスを軌道に乗せていく段階
事業化に向けて企業が抱える課題	技術の原理検証 差別化ポイントの本質把握	ブレークスルーを実現するための分析・解析 スケールアップにおける問題解決	各要因（コスト、性能バランスなど）の最適化 量産化技術の確立 国際基準や認証制度などへの対応
対応するコンサルティングメニュー	●コンセプト協創 ●先端技術調査 ●技術アドバイザー	●分析・評価 ●技術アドバイザー	●事業化サポート ●技術アドバイザー

※ご要望例

- 新規蓄電デバイス開発にあたり、候補材料の選定や開発難易度を見極めたい
- タービンブレード形状を精密に計測し品質を維持したい
- 熟練技能を可視化し、伝承に役立てたい

投資先で技術コンサルティングにご関心をお持ちの方は、産総研におつながじますので、投資育成担当者へお問い合わせください。